

書籍仕入れご担当者 様【ジャンル/文芸・評論】

「週刊読書人」「図書新聞」の源流といえる。
「日本読書新聞」の名物コラムです。

FAX: 092-726-9886

【12月中旬刊】

有題無題

BM0151 週刊・月曜日発行



本号定価 20円

日本読書新聞

1958~1963

いわお ひろし
巖 浩

北一輝に一時「師事したことがある」という高見順氏が「別冊文春」に書いた北の話は、ちかごろ面白いものであった▼昭和十二年に銃殺刑場へ引き出された時、同志西田税が「天皇陛下万歳を三唱しましょう」と言ったが、北は「それには及ぶまい」と制した。この北の最後につ

(日本読書新聞 1958・9・23 から)

よみがえる昭和30年代

多くの読書人たちを魅きつけた「日本読書新聞」の名物コラム〈有題無題〉の、当時の筆者がみた戦後日本への直言 268 話。

昭和30年代当時、どのような本が読まれていたのか。鶴見俊輔、吉本隆明、橋川文三、三島由紀夫、島尾敏雄など、若き思想家・作家たちが当時をどのようにとらえていたのか。同時代を生きた筆者・巖浩が明快に語る。

定価2600円+税 四六判・352頁

ISBN 978-4-86329-214-7 C0095

今日あらゆるものをのみこんで均一化してしまう活字と電波の強力な自動作用の中で、そう易々とはこなされない人間の質を意識させるような、豊醇にして硬骨な小新聞が成立する条件は何か。
（『理想の小新聞、夢見て』—「日本読書新聞」25周年に—から）

〈著者の横顔〉 巖浩(いわお・ひろし) 1925年、大分県津久見市生まれ。第七高等学校を経て1944年、東大文学部入学。1945年1月~9月、陸軍都城連隊、阿蘇山中にて終戦。46年復学、49年卒業。1949年日本読書新聞に入社、65年退社。70年~84年春、雑誌「伝統と現代」を発行。著書に『歌文集 浪々』『懐かしき人々《私の戦後》』(以上、弦書房)がある。2019年6月、逝去。

【FAX: 092-726-9886】

地小出版 流通センター 取扱品	冊	有題無題 日本読書新聞 1958~1963	巖浩 定価 2600円+税 ISBN 978-4-86329-214-7
	冊	懐かしき人々《私の戦後》 巖浩	定価 2400円+税 ISBN 978-4-86329-198-0
書店・帖合	冊	幻のえにし 渡辺京二発言集	定価 2200円+税 ISBN 978-4-86329-212-3
	ご注文日	弦書房 —Genshobo—	〒810-0041 福岡市中央区大名2-2-43 ELK大名ビル301 TEL:092-726-9885 FAX:092-726-9886 URL http://genshobo.com/ e-mail books@genshobo.com
ご担当者様	様		